



「北薩の雄」の誇りと明日への夢と

出水高等学校

出水高等学校の前身である旧制出水中学校が開校したのは大正9年です。当時、県下で8番目に開校した中学校でした。2年後の大正11年には、旧制出水高等女学校も開校しました。

旧制出水中学校が開校した年には、いわゆる戦後恐慌が起こりました。さらに出水高等女学校開校の翌年には、あの関東大震災が発生しました。このような激動の時代の中、出水高等学校は産声をあげたのです。

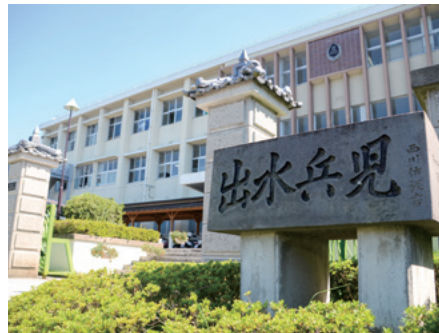
校長室の書棚には、創立記念式典の折に編集された代々の記念誌が大切に保管されています。それらを紐解くと、創立当時、学校全体には意欲と活力が満ち満ちていた様子がうかがえます。

特に旧制出水中においては、「一中・二中に負けるな」の合い言葉のもと、熱のこもった授業が展開されていたと記されています。

また、「揆奮館」と名付けられた学校図書館では、日が沈んで、あたりがすっかり暗くなるまで、多くの生徒であふれていたというエピソードも残されています。

このような先人たちの努力の蓄積が、「北薩の雄」たる出水高等学校の伝統の礎になったといえるでしょう。

私自身、出水高等学校



正門付近「出水兵児」の碑

く広げて不知火海を越えていき、やがて視界から悠々と姿を消す。そのような幻想的で美しい情景を想起させる、秀麗な校歌だと自負しています。

さて、本題である、創立百周年記念式典等の話題に移りましょう。

私の在学中、創立六十周年記念式典が行われました。記念講演では、本校OBの歌人で群馬大学名誉教授（当時）の房内幸成先生が講師を務められたと記憶しています。房内先生は、出水高等学校の校歌を作詞された方としても有名です。

その校歌ですが、高校生だった当時の私にとっては、実に難解な歌詞でした。ここでは校歌の一番を紹介しましょう。

春鳳の天がけり
島山高く水青き
不知火の海打ち越えて
万里はてなき海原に
浮かびてついに隠れなば
若き心を誰か知る



創立記念式典のようす

る写真が次々と映し出され、百年の歴史を振り返る機会となりました。記念講演会では、歴史作家の桐野作人（きりのさくじん）先生（昭和48年卒）に講師を務めていただきました。

桐野先生は、出水高等学校時代に考古学部で活動したエピソードを織り交ぜながら、出水にまつわる歴史や人物について、分かりやすく解説してくださいました。

このように、実に格調高い式典等を執り行うことができました。感謝の気持ちでいっぱいですが、百年にわたる歴史において、出水高等学校には様々な紆余曲折があったことと推測します。そのような中でも、同窓生や地域の皆様が、本校を愛し、支え続けてくださったことに、深甚なる敬意を表します。

情報技術の急速な発展が見込まれる近い将来、社会構造そのものが大きく変革すると言われています。それに合わせて、学校教育の在り方も今後大きく変わることが予想されています。

今回の創立記念式典等を機に、時代の要請にこたえる母校の新たな歴史をつくるべく、関係者一同、更に努力していく所存です。引き続き、皆様のご支援を賜るようお願い申し上げます。

（校長 宮原 義文）

出水高等学校は、令和2年に創立百周年を迎えました。本来、その年のうちに記念行事を行う予定だったので、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一年越しの令和3年11月13日（土）に、創立記念式典等を行いました。

今回は、「北薩の雄」と称えられた出水高等学校の歴史を振り返るとともに、校歌に関するエピソードを交えながら、記念式典等のもよつを紹介いたします。